

平成25年度
乳用種初生牛の経営に関する調査報告書
【要約版】

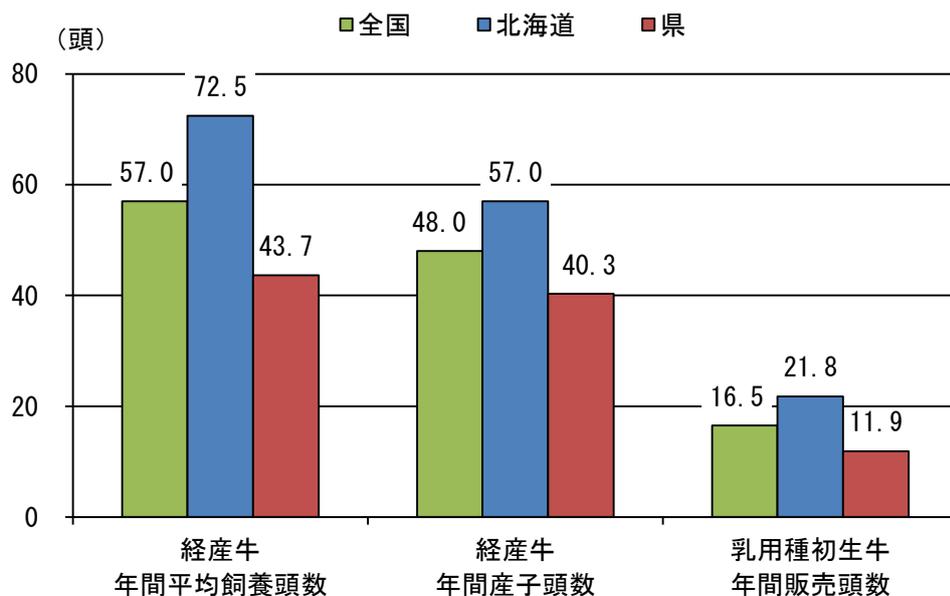
平成26年2月
 独立行政法人農畜産業振興機構

1 経営概況

調査対象農家（162 経営体）の経営概況は、全国平均では、経産牛年間平均飼養頭数 57.0 頭、経産牛年間産子頭数 48.0 頭、乳用種初生牛年間販売頭数 16.5 頭であった。

地域別にみると、総じて北海道（75 経営体）の方が県（87 経営体）に比べて大きく、経産牛年間平均飼養頭数では 1.7 倍、経産牛年間産子頭数では 1.4 倍、乳用種初生牛年間販売頭数では 1.8 倍となっている。また、経産牛年間産子頭数に対する乳用種初生牛年間販売頭数の割合は、北海道の 38.2% に対して県では 29.5% と、北海道が県より 8.7 ポイント高くなっている。これは、県において F1（交雑種）や ET（黒毛和種）の生産の割合が高いことによる。

図 経営概況



乳用種初生牛の市場出荷の平均販売日齢は全国平均では 21.2 日齢であり、北海道の 11.8 日齢に対して県では 31.1 日齢と県が北海道より 19 日長くなっている。

乳用種初生牛 1 頭当たりの全国の平均販売価格は、市場販売価格が雄 3 万 8,931 円、雌 8 万 8,036 円となっている。一方、相対取引価格は雄 2 万 7,894 円、雌 5 万 5,667 円となっている。

表 乳用種初生牛の平均販売日齢と平均販売価格

(円)

	市場出荷								
	全体			雄			雌		
	頭数	販売日齢	価格	頭数	販売日齢	価格	頭数	販売日齢	価格
全国	17.3	21.2	43,908	18.9	20.6	38,931	2.9	26.9	88,036
北海道	22.4	11.8	45,174	24.6	10.9	34,331	3.4	19.5	137,333
県	11.9	31.1	42,572	12.9	30.6	43,743	2.4	35.3	31,696
	相対取引								
	全体			雄			雌		
	頭数	販売日齢	価格	頭数	販売日齢	価格	頭数	販売日齢	価格
全国	12.7	18.8	33,448	14.8	17.8	27,894	4.3	22.7	55,667
北海道	15.3	11.1	36,286	15.8	10.5	36,000	12.0	15.0	38,000
県	11.9	21.2	32,585	14.4	20.3	25,191	2.8	24.2	59,200

2 乳用種初生牛1頭当たり生産費

乳用種初生牛1頭当たりの全国の実生産費は1万2,303円となっており、そのうち79.7%が労働費(59.9%)と飼料費(19.8%)であった。地域別、経産牛年間平均飼養頭数規模別に概観すると、以下のとおりである。

(1) 地域別

地域別にみると、北海道の1万2,133円に対して、県では1万2,449円とほぼ同程度となっている。また、生産費の太宗を占める労働費と飼料費の合計比率は、北海道で73.9%、県で84.7%と県が北海道より10.8ポイント高い結果となっている。

図 生産費(地域別)

(円)

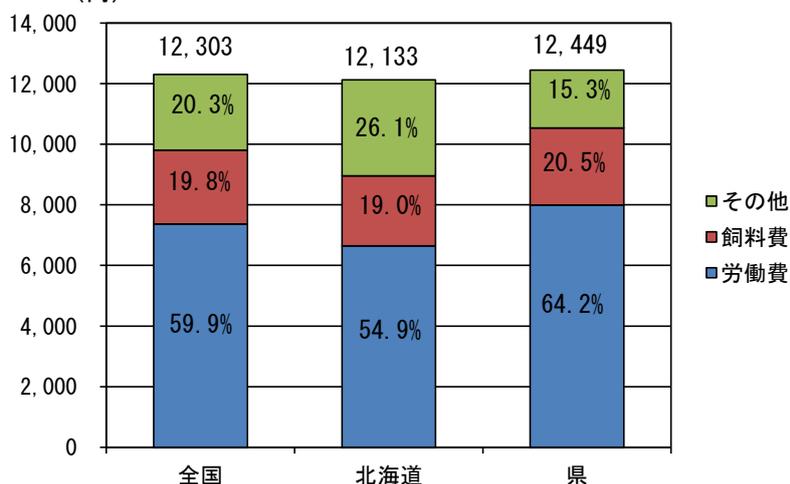


表 生産費（地域別）

(円)

	労働費	飼料費	敷料費	獣医師料 及び 医薬品費	水道・ 光熱料及 び動力費	生産管理 費	修繕費	その他 資材費	ハッチ費	生産費
全国	7,370 (59.9%)	2,439 (19.8%)	491 (4.0%)	689 (5.6%)	296 (2.4%)	276 (2.2%)	130 (1.1%)	612 (5.0%)	33 (0.3%)	12,303 (100.0%)
北海道	6,647 (54.9%)	2,311 (19.0%)	497 (4.1%)	733 (6.0%)	360 (3.0%)	466 (3.8%)	269 (2.2%)	850 (7.0%)	41 (0.3%)	12,133 (100.0%)
県	7,993 (64.2%)	2,549 (20.5%)	485 (3.9%)	652 (5.2%)	241 (1.9%)	111 (0.9%)	11 (0.1%)	407 (3.3%)	27 (0.2%)	12,449 (100.0%)

(2) 経産牛飼養頭数規模別生産費

経産牛飼養頭数規模別にみると、北海道では29頭以下規模から30～49頭規模にかけてやや高くなり、50～79頭規模で低下し、80～99頭の規模で最も高くなっている。一方で、県は30～49頭規模で低下し、50～79頭規模で最も高くなり、80頭以上規模で再び低くなっている。

図 生産費（経産牛飼養頭数規模別）

